

日工販ニュースVol.20 No.8・9



もくじ

巻 頭 言 「自動車の生産を支える工作機械の供給側」 … 日工販理事 山下 隆蔵	2
メーカーインタビュー …………… (株)岡本工作機械製作所	4
リレー随筆 「不得意な仕事」 …………… サンコー商事(株) 井口 悟	7
議 事 録 「調査広報」「西部工場見学」「西部正・副会員懇談会」 ……………	8
S E 教 育 「合格者」 ……………	10
私 の 読 書 評 「“木曜島の夜会”を読んで」 …………… 三菱UFJリース(株) 高市 惇平	11
甘 口 辛 口 「米国の環境保護と自然保護」 …………… (株)テヅカ 三橋 誠	12
工作機械と私 …………… 伊吹産業(株) 和久田 孝	13
統 計 資 料 「FA流通動態調査1・2」「マシニングセンタ・NC旋盤動向」 「工作機械受注高月別推移」「工作機械業種別受注額」 ……………	14
消 息 ・ 行 事 ……………	19
会 員 会 社 ……………	20

SE資格者にご回覧下さるようお願いいたします。

“自動車の生産を支える工作機械の供給側”




日工販理事
山下隆蔵
(山下機械株・取締役会長)

当社は、山下寅蔵(明治35年生まれ)が昭和4年に創業して来年4月に80周年を迎えるが、太平洋戦争が終わった昭和20年8月から数年間は事実上の休業状態にあった。戦後のわが国の機械産業の復興のキッカケは、昭和25年の朝鮮動乱時の米・軍備の補給メンテ基地化にあったというが、中部における戦後の工作機械産業の復興の実感は、明らかに昭和30年代のトヨタを中核とした自動車産業の誕生によるものと思う。

昭和36年(1961)、国民車・パブリカ[800cc]の登場は、戦後小型自動車の画期的なスタートとなった。以降30年間に亘ってわが国の自動車の生産(11社合計)は基本的には1990年[1,350万台]まで、右肩上がりに年45万台ずつ生産を伸ばしてきたことになる(実際にはその間に5回の不況があったが)。

一方、工作機械の内需(日工会・国内受注統計)は、1,500億円(昭和40年代)から7,000億円台に伸びた(90年バブル頂点での1兆円は明らかに行き過ぎ)。そしてバブル崩壊後93、94年の平成不況で内需は1/3の3,000億円に激減する



が、自動車の国内生産は1,000万台横ばいであったにも関わらず96年以降7年間、数千億円の内需があったのは、その間に自動車の海外生産が急拡大し、「工作機械の国内調達・海外設置」という調達構造が生まれ、今も海外主導型の受注が続いているからである。国際的に競争力を持つ産業(日本の自動車産業)が、その生産拠点を広く海外に展開し、現地で使う設備(工作機械)を母国(日本)から持ち込むというわけである。

カーメーカーは海外生産の当初からあった現地・国産化率のクリアを目指した。そしてその要請もあって進出した主要部品メーカーは、果敢に供給対応し目標の現調率を充たしたがその裏側には、設備メーカー、商社の現地対応があり、その生産サポートの姿勢は、他国には無い運命共同体的一体感により支えられてきた。両者の関係は相互依存型であり代替不能の関係でもある場合が多い。そして多くの設備メーカーが、設備の設置から以後のメンテナンスまで含めてグローバル対応を可能とする機能を確認するに至ったのである。日本製自動車の品質の評価は、生産を支える設備等のメーカーの技術力・対応力とは不可分の関係にあり、高精度加工の保証に加え、絶え間ざるコスト削減の強い要請の中で果たしてきた努力に改めて敬意と感懐を持つ次第である。

そして、自動車生産の組立と部品加工が世界規模で同時進行する今日、設備のメンテナンスは24時間365日体制とならざるを得ない。通信・輸送の手段の飛躍的進化により生産現場での出来事はユーザーの了解があれば、リアルタイムで設備供給側で見られるようになったし、地球の裏側のトラブルでも対策は瞬時に判断可能になったといえる。

メーカーに聴く プロのこだわり！



究極の“超精密技術”を追求し 高精度へのニーズに応える

◇ (株)岡本工作機械製作所 ◇

新連載「メーカーインタビュー訪問」の第1回は、神奈川県横浜市に本社を置く(株)岡本工作機械製作所。同社は1926年創業で平面研削技術をコアとする工作機械メーカー。「GRIND-X」のブランドのもとに工作機械部門と半導体関連装置部門を2つの柱として独自技術による多彩な製品を製造販売している。近年、あらゆる製造の場で「高精度」へのニーズはますます高まっており、“マザーマシンメーカー”としての同社技術への期待は大きい。

●23℃±0.5℃の恒温環境で生産

最近の同社の業績について、取締役営業統括部長の伊藤暁氏は「工作機械部門では液晶関連業界や工作機械業界から大型平面研削盤などの受注が旺盛ですし、半導体関連装置ではウェハー材料メーカーやデバイスメーカーの積極的な設備投資を背景にバックグラインダーなどが好調です。これも早くから“超精



取材に応じる伊藤暁取締役営業統括部長

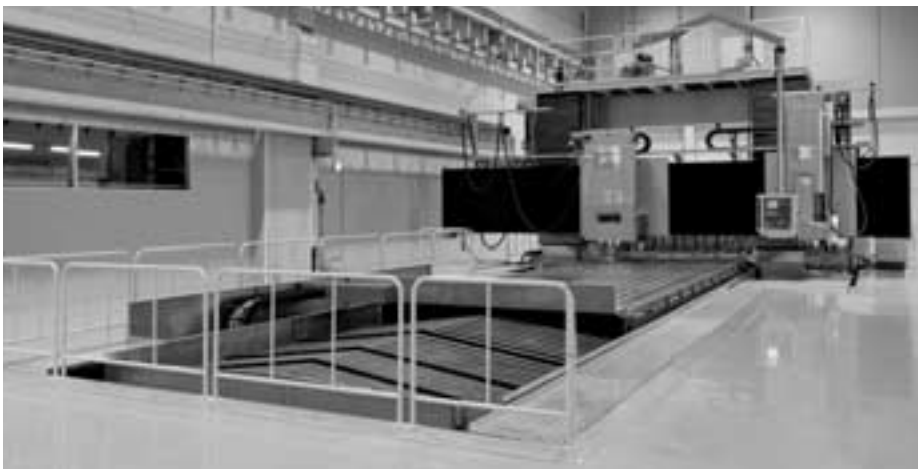
密”に特化して新技術・新製品開発を進めてきた結果だと思えます」と語る。そして「最近はあらゆる産業分野で大型化への要望が高まっていますが、その大型設備を構成する部材や部品の高精度仕上げへのニーズは以前と比較にならないほど強まっています」とのこと。

例えば、“究極の平面創成”を目指した可変静圧スライドシステム搭載「超精密平面研削盤UPGシリーズ」は、平面度で $0.5\mu\text{m}$ 、真直度でも前後方向で $0.4\mu\text{m}/0.8\text{m}$ 、左右方向で $0.5\mu\text{m}$ 以下を実現した新鋭機。油膜も偏荷に対して一定に保つよう制御され、使用する静圧油量も従来方式の3分の1という経済性を発揮する。「いま大型フラットパネル市場は急成長しており、露光装置のフレームや液晶用フォトマスク・XYテーブルなどでは超精密が要求されます。この機械はそうした大物加工における高精度へのニーズに対応したものです」とのことだ。

これに加えて、さらなる大型化への要請に応じて開発した「大型超精密高剛性門型平面研削盤UDG10035NC」は大きな注目を浴びた。その加工範囲は長さ10m、幅3.5mと世界最大級。「この機械はUPGシリーズを安定供給するためのマザーマシンとして位置付けられますが、他社向けにも販売を計画しており、さらに大きい加工範囲の注文への対応も検討中です」とのこと。この機械は精度を確認しながら組み立てを行う必要があるが、「安中工場には $23\text{C}\pm 0.5\text{C}$ の恒温環境を持つブースがあり、その中に同じ条件を保てるピットを設置して、厳密な温度管理のもとで完成させました」と説明する。

●プロに応えるプロフェッショナル集団 としてユーザーに提案

同社は1926年(大正15年)創業で、1930年に国産初の歯車研削盤の完成から始まり、1953年に国産初の平面研削盤を製作、1968年に世界初のCNC平面・成形研削盤を開発するなどの歴史を誇る。伊藤取締役は「当社が最初に手がけた歯車研削盤は最高級レベルの技術が必要でした。その技術を礎に平面



注目の大型超精密高剛性門型平面研削盤UDG10035NC



安中工場

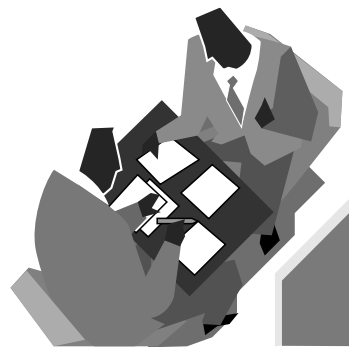
研削盤の開発に取り組んできました。現在はその“まっ平ら”を追求する技術に力を注いでいますが、ただ“まっ平ら”であればよいのではなく、重要なのは“使う立場に立って”開発することにあります。そのためには、お客様の業界・業種を知り、どのような部品加工をして、どのような機械を必要としているかを理解することが欠かせません」と語る。「そこで我々営業スタッフは常にお客様と接触して最新情報を吸収し、技術研究部門と連携をとりながら新技術・新製品開発に取り組み、お客様に提案しています」とのこと。また、全国各地のサービスマンと協力してビフォアサービスからアフターサービスまで細かく対応できる体制を整えている。

さらに特筆すべきはグローバル展開だ。

1972年にはシカゴ(米国)に現地法人の販売会社を設立、翌年にはシンガポールに同国で初めての工作機械を製造する現地法人を設立、1987年にはタイに鋳物を生産する現地法人を設立、1990年にはドイツに販売拠点を設けるなどの歴史がある。「アメリカ進出から36年、今や研削盤ではナンバーワンと評価されるなどOKAMOTOブランドは海外で広く浸透しています」。製造・販売については「国内工場(安中工場)が基本設計などの中核機能も果たしながら、生産・販売計画に応じてタイやシンガポール工場の機能を効率的に活用する分業体制を確立しています」と説明する。特にタイでは現在は鋳物だけでなく部品加工・本体組立・板金塗装までの一貫体制を確立した。シンガポールではタイとの連携の下に汎用マシンの製造を担っている。

同社の納入先は金型や工具、自動車部品、工作機械をはじめとする機械メーカーから半導体、セラミックス、精密機械などあらゆる業種にわたっている。

「お客様は言うまでもなくその業界のプロですから、そのプロのご要望におこたえできる研削加工のエキスパートとして、我々は“プロに答えるプロフェッショナル集団”であらねばなりません。さらに高精度・超精密の理想を追い求めて、皆様の期待にお応えしていきたいと思ひます」と伊藤取締役は結んだ。





ワレ随筆



不得意な仕事

サンコー商事(株)
名古屋ルート営業部
井口 悟

自分にふさわしい職業というものは、自分ではなかなか分からないものだと思います。勿論、世に言う生まれながらにして天賦の才を持ち合わせているごく少数のスポーツ選手や芸能人、芸術家などは例外であります。自分にはこの職業が一番向いていると自信を持って答えた人が、必ずその道に満足し将来成功を収めるとは限りません。職業というものは実際にその実務をやってみなければ実態がなかなかつかめないのは当然ですが、反面その実務を経験すればするほどその奥深さに感嘆することもあると思います。

一般に、その職業が自分に向いていると思込んでいるのはただ単にその職業が好きだという単純な理由と、自分の性格に合っているからという生理的な理由だけである場合が多く決してその道に秀でているという意味ではないと思います。「好きこそもの上手なれ」ともよく言われますがそれは一般に言われている趣味や道楽、習い事の世界のことであって職業とかけ離れてのことです。逆にいえばそれこそ「下手の横好き」と思います。好きというのは表面的には簡単にその仕事を成し遂げることが出来るかもしれませんが、しかし単に慣れることが早いだけのことです。好きだからこそ一生懸命頑張るので疑問や迷いが少なく苦しみも少ないのではないのでしょうか。

しかし、仕事とは言うまでもなく真剣勝負の世界であって趣味や道楽とは訳が違うと思います。多いか少ないかは別にして報酬を得ている以上多くのストレスや苦痛を伴うことは当たり前です。自分にとって不向きな仕事とははっきり言ってその仕事が嫌いなのです。苦手なのでやりたくはないのです。しかしそれでも仕事として絶対やらねばならない境遇に追い込まれたらどうでしょうか。きっと不得意な分野であるがため細心の注意と時間をかけるであろうし、また人一倍勉強するであろう。なぜなら嫌いではすまされないからです。人間切羽詰まってからの力は自分でも信じられないほどの能力を発揮するものです。

今まで嫌いという生理的な判断から避けてきただけであって決して能力がないわけではないのではありませんか。やってみれば思いのほかすばらしい能力を発揮するかもしれない。そうかといってサラリーマン一旦就職した会社をほかの職種を経験したいからといってそう簡単に辞めるわけにはいきません。そこで転勤、異動で働く場所、お得意様、仕入先、同僚等相手が変わる時は、ましてそこが自分にとって不得意な分野であればそれこそ自分を見つけ出すチャンスと思って挑戦してみたいかがでしょうか。思いのほか新しい発見があるかも知れません。仕事の成功者とはこんな境遇から育った人たちかもしれないと思っています。

大変とりとめのない文章になりましたが、次号は(株)井高 刈谷支店 第二営業室 室長 小栗弘嗣様をお願い致しました。どうぞ、宜しくお願いします。

第100回 調査広報委員会

日時：7月18日(金) 15:30~16:30
場所：機械工具会館5階
出席者：田尻委員長、委員5名、事務局2名

委員長挨拶：

本日の委員会は長い歴史が刻まれて100回目となります。先日の日工会6月受注報告によれば内需、外需共に前年比97%台に落ち込み、特に輸出にブレーキがかかっており全体的にこの先が気になるところです。そんな時であるからこそ当委員会がより多くの情報を発信して会員の皆様に役立っていかねばならないと考えています。本日は重要議題がありますので議論していただき結論を出していきたいと思えます。

議事：

(1)日工販ニュース編集について

8、9月合併号編集について事務局より掲載する寄稿、記事内容について説明があり承認された。

(2)日工販活動PRパンフレット作成の件

提案内容、見積金額より判断して現在日工販ニュースを制作している(株)産業企画に依頼することにした。ページは見やすいこと、印刷物とする場合特別サイズの用紙を必要としないことを勘案して8ページとし、企画内容案について討議した。

見直し、訂正、変更等、本日の討議結果を基に事務局で訂正案を作成し各委員へ報告し最終意見を提出することとなった。

(3)インタビュー先候補について

新企画であるメーカー賛助会員のインタ

ビュー第一回目は、(株)岡本工作機械製作所の訪問で同社伊藤暁取締役営業統括部長にお願いした。

次回の訪問先について討議を行い今度は関東以外の地域の2社を一日で訪問することとなり、事務局より候補先と交渉することとなった。

(4)JIMTOF座談会開催の件

一昨年のJIMTOF同様会期中に会場の会議室にて座談会を行い日工販ニュースに掲載することにする。日時は11月3日(月)16~18時の2時間。出席者は田尻委員長他調査広報委員全員とし、必要あれば委員各社から営業関係者の出席もお願いすることにした。テーマについては次回の9月に開催する委員会決定することにした。

(5)日工販HPの件

専務理事より最近の日工販HPへのアクセス状況を報告した上でHPのリニューアルの提案があった。前にも議題に挙がったが、現在のHPは旧形式のため使い勝手が悪く、一方関連団体のHPを見ると新しい形式のタブ方式を採用しており各項目へのアクセスがしやすくなっている。リニューアル費用は本年度予算に計上してあるので、日工販パンフレット掲載を機会に実施に踏み切るかどうか討議の結果、総会にて承認された予算内で実施することを前提で全員の賛成をもって承認された。事務局で業者より見積もりをとり打ち合わせることにした。

次回開催予定：

9月24日(火) 12:30~15:00
機械工具会館5階

西部地区工場見学会

開催日：8月21日(木) 13:30~16:15

見学場所：三菱重工業(株)

栗東本工場工作機械事業部

参加者：正会員39名、リース7名、計46名

西部地区委員会は、本年の工場見学会を三菱重工業(株)工作機械事業部(滋賀県栗東市)で開催し会員46名が参加しました。

本年の工場見学会は現地集合とし、快晴の中社員の方々が駐車場の案内をして下さいました。

最初に第二工作機械工場3階プレゼン会場に案内され、営業部長の若生高明氏より「三菱重工業はメーカーでありユーザーでもあります。」との話があり、重工業のご苦労と貢献度の大きさを強く感じました。

また、日工販に対し「工作機械事業部を気軽に使って下さい。」との歓迎の挨拶を頂き日工販への期待と信頼も感じました。

会社案内ビデオで、創立が1884年、創業者岩崎彌太郎氏が明治政府より工部省長崎造船局を借り受け、長崎造船所と命名して造船事業を本格的に開始した。

戦後1950年に財閥解体により三菱重工業3分割の1社として中日本重工業(株)京都製作所として発足。国内初のトランスファーマシンが開発された。

1964年に再度合併し三菱重工業(株)として設立。

1984年に現在の滋賀県栗東工場を新設。

2000年に工作機械事業部が発足し歯車工作機械・大型工作機械・円筒研削盤・専用工作機械・精密切削工具・自動車部品・トランスミッ

ション部品・小型精密加工機等が生産され現在に至る。

実に124年わたる歴史の説明をして頂きました。

続いて歯車設計課長西村幸久氏より歯車工作機械全シリーズの機械紹介があり、全シリーズで国内シェア50%、ホブ盤加工範囲は外形1,000mm・シェーピングは外形2,000mmと技術力・生産能力の高さを感じました。

引き続き大型設計課主席若田康二氏より門型マシニングセンタを主にプラノマシセンMVR49DXは門幅4,300mm・機械高さ12,000mmの超大型マシニング・横中ぐり・横MCからμV1の小型精密加工機と対照的な機械と生産能力についての説明を受け、衝撃と感動させられました。

また、JIMTOF向け新型MVRの紹介もいち早く説明をして頂きました。

説明を受けた後、工場見学を実施。第二工作機械工場1階MTCショールーム入口に70年前の由緒ある旋盤「KOHAN400」が展示してあり、また主力工作機械も展示されテスト加工も可能とのことでした。

その後、専用機組立ライン・マシセン中型機組立ラインと大型機組立ラインを見学し、続いて第一工作機械工場の歯車機械組立ライン・研削盤組立ライン・汎用タクト組立ラインと見学させて頂きました。

最後にお忙しい中、事前準備等ご苦労をお掛けし効率的に工場見学会の案内をしていただき、改めて御礼を申し上げる次第です。ありがとうございました。

(赤澤機械(株) 営業部課長補佐 寺井 充記)

日工販 西部地区正・副会員懇談会

日 時：6月25日(水) 16:00~20:00

場 所：りき六

出席者：西部正会員・副会員13社14名

赤澤委員長より挨拶があり、6月4日に開催された20年度通常総会が無事に終わった旨報告がありました。引き続き本日の議題についての討議に入りました。

①情報交換：最近のマーケット情報について各会員より発言していただきました。纏めますと今後の状況としては当会が年初に予測した見通しよりかなり厳しい方向に向かっているようで、年後半の米国の景気の動向、自動車業界の動向により影響は大きく左右されることでした。

②引き続き20年度の今後の行事について討議し
下記日程で開催する旨了承されました。

- ・工場見学会：
8月21日(木) 三菱重工業(株)工作機械事業部
- ・製品研修会、JIMTOF出展機説明会：
10月1日(水) エル・おおさか
- ・懇親ゴルフ会：11月18日(火)
グリーンエースカントリークラブ予定
- ・忘年講演会・懇親会：
12月3日(水) 大阪弥生会館
- ・新春時局講演会：
平成21年1月21日(水) エル・おおさか
- ・西部地区会員懇談会：
平成21年3月16日(月) 大阪弥生会館



日工販SE合格者 第155回発表

今回は7・8月の合格者計16名です。

認定No.	会社名	合格者名	認定No.	会社名	合格者名
08-17-2136	三菱商事テクノス(株)	小松崎正浩	08-17-2144	(株)森精機製作所	楠部 誠治
08-17-2137	(株)旭商工社	金森 亨	08-17-2145	三菱UFJリース(株)	駒沢 真
08-17-2138	(株)山 善	木原 祐介	08-17-2146	東芝ファイナンス(株)	牛腸 俊彦
08-17-2139	(株)ジーネット	江川 哲郎	08-17-2147	三井リース事業(株)	吉田 匡彦
08-17-2140	(株)ジーネット	入江 陽介	08-17-2148	(株)兼松KGK	小柳憲太郎
08-17-2141	(株)立花エレテック	八木 英晃	08-17-2149	三立興産(株)	石川 雅己
08-17-2142	大幸産業(株)	木村 研介	08-17-2150	三菱UFJリース(株)	滝田 雅男
08-17-2143	(株)森精機製作所	妹尾 幸浩	08-17-2151	吉岡 幸 (株)	野坂圭士郎

更新研修合格者 第105回発表

今回は8月の合格者1名です。

認定No.	会社名	合格者名
08-11R-1485	(株)山 善	石倉 一志

「木曜島の夜会」を読んで

(文芸春秋社)



三菱UFJリース(株)

機械営業部

高市 惇平

「木曜島の夜会」という司馬遼太郎さんが書かれた小説を読んだ。中学時代に、私の故郷である愛媛県出身で俳人の正岡子規、軍人の秋山兄弟を題材にした長編小説、「坂の上の雲」を読んで司馬遼太郎さんのファンの一人になった。以来司馬遼太郎さんの小説を読むようになり、最近「木曜島の夜会」という小説を読んだ。

話の舞台はオーストラリア大陸の北端に位置する小さな小島、木曜島。この海域で捕れる白蝶貝、黒蝶貝は高級ボタンの材料として使われた。明治の初期から多くの日本人が雇われて、貝の採取を行っていたのである。

明治初期という今から100年以上も前に、赤道を越えた南半球のオーストラリアまで出向いて仕事をしてきた日本人がいたことに私は驚いた。当然の疑問ながら何故オーストラリアに行ったのであろうかという疑問を持った。本によると、答えは単純明快でお金の為であると、記されている。

オーストラリアのある学者による、木曜島で働く日本人を観察した記述によると、「日本人を特徴づけるものは、彼等の精力と成功への強い衝動、および高い賃金を得たいという熱望であった。希望者が多いために、ダイヴァーとして選ばれた者は、もうそれだけで十分優秀であった。さらに、ダイヴァーの手当ての率が、仕事のあがりにつれて高くなるということもあって、日本人ダイヴァーは金銭への熱望のために太陽が出ているかぎり働くというほどに熱心であった。」と書かれている。また、英国海軍の元水兵が海の中に一日5、6回潜るのが平均的な限界の中、日本人ダイヴァーは一日50回近く潜ったとも書かれている。

また、当時のダイヴァーの死亡率は10%程度と非常に危険な仕事だったようだ。現在の様に酸素ボンベがあるわけでもなく、事故死、鯨に襲われて死亡することもあったらしい。

お金を稼ぐために渡豪した日本人ダイヴァーではあるが、徐々に職業「ダイヴァー」を誇りに思い、十分お金を稼いだ後にも現地に永住したダイヴァーもいるらしい。どの様な理由でその仕事に取組んだにせよ結果として本当にやりがいのあると思える仕事に巡り合うことは幸せなことではないかなと感じた。

私事ながら、私も昨年の春リース会社に就職して、主として工作機械をリースする専門部署に配属となった。配属となるまで、工作機械に関する知識は全くなく不安であったが、社内の諸先輩方、そして多くのお客様から多くのことを日々勉強させてもらっている。今では工作機械業界に携われたことを本当に幸せと思いながら、日々業務に取り組んでいる。

当初はお金の為に渡豪したにも関わらず、仕事に魅了されたダイヴァーと、当初は全く工作機械業界のことを知らなかったけれど、今の仕事に魅了されつつある自分を重ねながら本を読み終えた。また、いつの日か実際に木曜島を訪ねたいと思っている。



米国の環境保護と自然保護

(株)テヅカ 取締役社長 三橋 誠

海外出張時に各国のホテルに泊まると、その国の環境保護に対する意気込みを密かに感じ取る事ができます。欧州のホテル、特にドイツでは捨てるゴミの分別がかなり厳しく、ゴミの内容により何種類にも細かく分けてあるゴミ箱に驚かされます。一方米国のホテルに泊まると、いまだにゴミ箱は一つで缶から瓶、紙、プラスチックまで一緒に捨てるので、当然リサイクル、リユースなどは考えていない事が分かります。やっと米国の一部の都市で廃棄物リサイクルが始まりましたが、市の資金不足で結局全て一般ごみとして埋め立てに回されたと言う記事を読んだ事があります。

米国の環境保護に関する姿勢は、1998年11月、当時の米国大統領クリントンが京都議定書に署名しながら、2001年4月ブッシュ大統領が署名を撤回するまで、米国議会での批准が出来なかった事で皆さんも良くご存知だと思います。しかし、それと反するように温暖化の原因とされる温室効果ガスの排出削減対策として、バイオ燃料の生産には米国は非常に積極的です。既に2007年1月には連邦議会が10年間でガソリン消費量の20%削減、代替燃料の生産を54億ガロンから350億ガロンに拡大し、自動車の燃料の15%をこれらで賄う計画を発表しています。環境保護であるゴミの廃棄について米国は無頓着のようですが、世界一厳しい基準で知られるカリフォルニアの排ガス規制や、ゴア元副大統領の著者「不都合な真実」などで、地球温暖化には自らも強い警鐘を鳴らしているのです。

ただこの代替燃料推進の裏には、オイルマネーに対抗し自国産のトウモロコシをバイオ燃料生産に回す事で、食料戦略物資の一端を握ろうという経済構想が隠されている事は言うまでも有りません。使い捨てる旺盛な消費と、一方では世界戦略絡みの代替燃料生産は、矛盾した米国の現状を良く表しているようです。

次に視点を米国の自然保護に移してみると、こちらには昔から厳しい規制を行っています。特に私の趣味の「釣り」の世界では、高額な入漁証の取得義務から、魚の種類、雌雄、大きさ、季節で細かく規制が来ています。それに違反すると罰則も驚くほど厳しく、日本のように釣れば幾らでも持ち帰れる状況とは全く異なり、この点は感心します。近年益々規制が強化され、アラスカのキングサーモンが釣り人には一匹/日/人、リミット三匹/年間/人だったのが、今年よりリミット二匹/年間/人となり、3日間の釣行を計画しても、最初の2日でキングを一匹ずつ釣り上げれば、3日目はどんな大きなキングが掛かっていても全てリリースしなければならず、我々釣り人をガッカリさせています。このように自国の自然資源を守るという事では、米国は多分世界一厳しい国ではないでしょうか。

人間は生存する上で必ず環境に影響を与えます。それを如何に最小限に抑えるかが環境保護であるならば、自然に対して人間の手を極力加えずに、そのまま残す事が自然保護だと考えられます。世界のリーダーを自負する米国が、この似て非なる二つの保護のバランスを、世界の資源戦略と経済戦争の中でどのように取っていくのか、我々日本の将来にも大きな影響を与える事になりそうです。

工作機械と私



伊吹産業(株)
営業2部 係長
和久田 孝

私が入社した平成7年当時は『就職氷河時代』で設備投資よりも、リストラと倒産旋風が巻き起こり、何時になったら『好景気』が来るのだろうかと思っておりました。

暗いトンネルを抜け、やっと世界経済は回復し、輸出関連業種の製造業が蘇り、大阪府下の中小零細企業の裾野まで仕事が溢れ、ここ4～5年間機械業界は絶好調が続き、私にとっても「絶好調」だったと思います。

最近では工作機械のテレビCMなど機械業界がスポンサーになる番組も増え、一般の人にも身近なものになってきました。職業柄「何を作っている工場でしょうか？」というクイズ番組では、ついテレビにくぎ付けになってしまいます。

私は会社に入って1年目は内勤。2年目は先輩のカバン持ち。3年目からは1人で営業に回るようになり、最初の2～3年間は10年に一度設備投資するかどうか分からない中小零細企業に飛び込む営業活動を続けておりました。

機械はなかなか売れず『営業とは難しいものだ』と悩んだ時期も随分ありましたが、私自身の性格はゆっくりと構え、余り深刻に考えない方で『ウサギと亀』に例えるならば『亀』で、そんな私を先輩や周囲の人のおかげで何とか乗り越えてこられました。

それでも、3カ月も受注がない日が続くと言葉数も少なくなり笑顔も消えていきます。

そんな時は初心に戻りコツコツと営業マンの基本動作を繰り返すしかないと言いつつも、お客様の工場の現場をよく観察し、お客様が必要と思われる商品を見つけ出して、導入効果を提案する様に心掛けてまいりました。

商いは『運の強さ』が大きく左右します。

昔から『果報は寝て待て』と言う諺がありますが、機械の販売だけは寝ていてはいつまでたっても運は自分の方に近付いて来ません。

私は『諦めないこと』と『人に好かれること』によって運は開けると考えております。

どうやら戦後最長の『いざなぎ景気』を超えた好景気も、米国発の金融危機、資源インフレなどにより景気減速が複雑に絡み合い、世界経済が混迷に陥っております。

またしばらく厳しい時代に入りますが、何事も諦めず、コツコツと仕事をしていると必ず運が向いてくると思います、それが機械を販売する私に与えられた試練と思っています。

『人生、諦めないから夢が近づいてくる』

私はまだ30代、これから先の長い人生、如何にして『素晴らしい人生』を引き寄せられるのか、それは『モノづくりのサポーターとしてプロ意識に徹すること』と肝に銘じ毎日の営業活動を行っています。

統計資料

工作機械・FA 流通動態調査 1

統計1

単位百万円

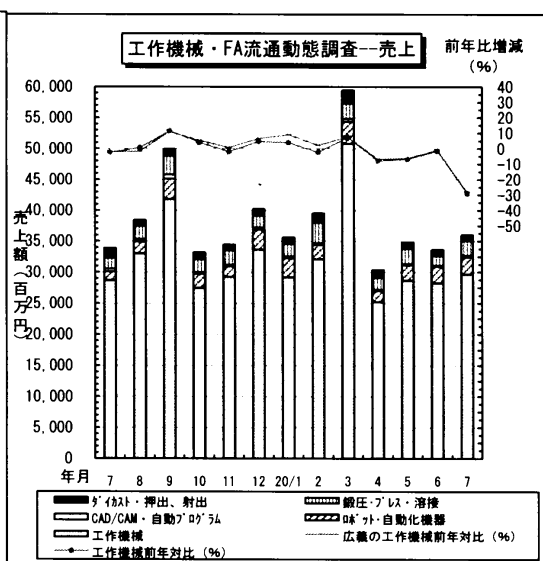
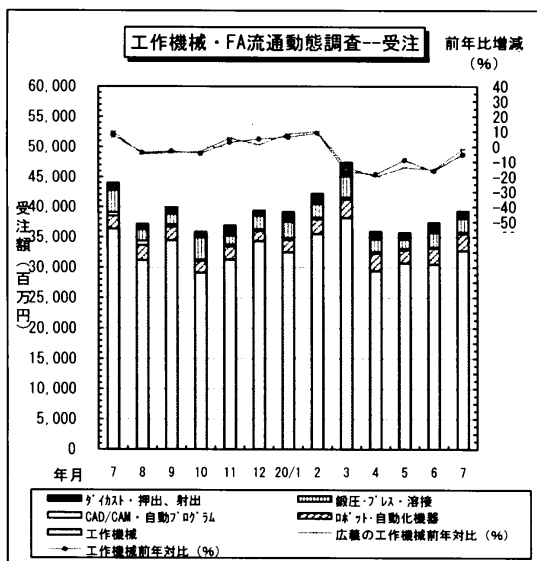
39社合計		受注				売上				
調査月次	20/7	前月比	前年比	20/1-20/7	前年比	20/7	前月比	前年比	20/1-20/7	前年比
広義の工作機械	32,781	7.3%	-9.9%	229,929	-6.9%	29,724	5.1%	3.5%	224,173	-1.2%
工作機械	2,803	6.4%	29.6%	17,965	-1.7%	2,753	3.8%	97.8%	18,541	10.0%
ロボット・自動化機器	265	54.1%	-54.1%	1,862	-71.4%	215	8.0%	-53.6%	1,850	-62.6%
CAD/CAM・自動プログラム	2,274	-5.8%	-37.4%	16,790	0.6%	2,391	56.2%	37.3%	16,094	35.7%
鍛圧・プレス・溶接	1,263	-24.3%	-1.9%	11,017	24.4%	999	-4.6%	-37.1%	9,052	35.6%
ダイカスト・押出・射出	39,386	5.2%	-10.6%	277,563	-6.7%	36,082	7.0%	6.4%	269,350	0.8%
小計	13,133	-1.3%	-3.7%	97,825	-0.1%	13,634	-0.1%	14.9%	95,955	5.9%
工作機械以外の扱い商品	52,521	3.5%	-9.0%	375,391	-5.0%	49,718	5.0%	8.6%	365,838	2.2%
合計	1,327	-0.2%	6.1%							
従業員数										

統計2

単位百万円

30社合計		受注				売上				
調査月次	20/7	前月比	前年比	20/1-20/7	前年比	20/7	前月比	前年比	20/1-20/7	前年比
内訳	23,588	4.2%	-4.4%	169,848	2.1%	21,205	6.4%	8.3%	160,102	8.4%
直販 (内リース)	1,173	-39.8%	-66.2%	11,577	-22.5%	2,282	102.7%	9.2%	13,170	-33.8%
卸	9,336	-1.6%	-15.1%	65,819	-11.2%	8,575	-8.7%	-13.3%	68,457	-10.1%
輸入	459	-11.4%	52.0%	3,968	-33.0%	108	-56.5%	-87.5%	4,259	65.4%
輸出 (内間接輸出)	3,930	-27.2%	-36.5%	40,384	-6.2%	6,108	37.7%	21.9%	39,405	22.4%
	496	-36.4%		5,237	58.5%	1,107	58.4%		7,195	74.0%
従業員数	936	-0.1%	2.0%							

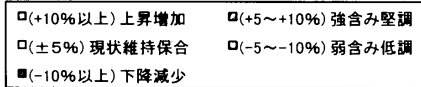
注：本調査は、20年4月より集計対象会員を見直し、前年分も集計し直した数値と比較した。
 会員72社中統計1に関しては39社、統計2に関しては30社の回答を得て集計したものである。
 折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
 参考までに今月のデータ提供会社総数は42社である。



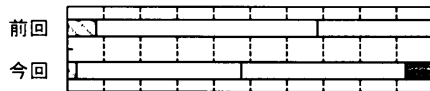
工作機械・FA 流通動態調査2

今回平成20年7月調査/前回平成20年4月調査対比

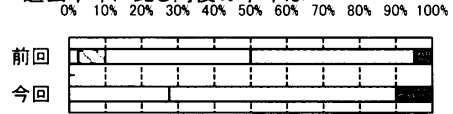
1. 工作機械全体見通し



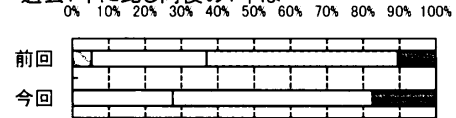
現状に比し直近(1~3ヵ月)は



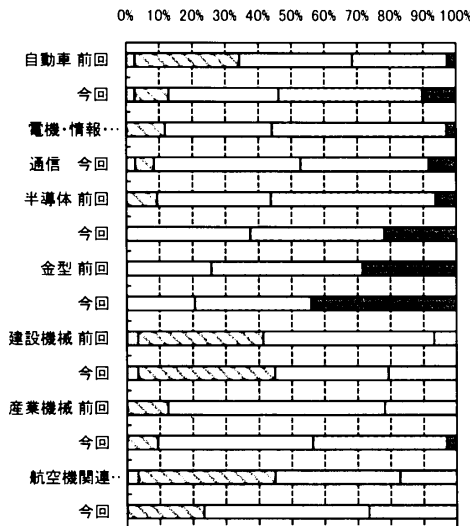
過去半年に比し向後の半年は



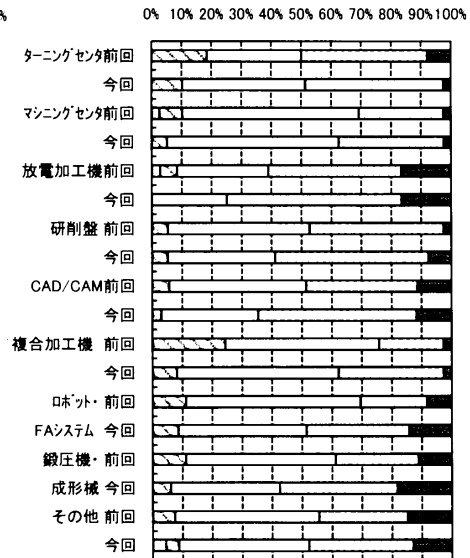
過去1年に比し向後の1年は



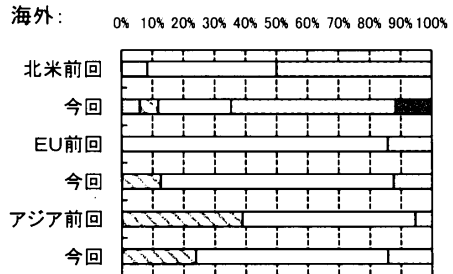
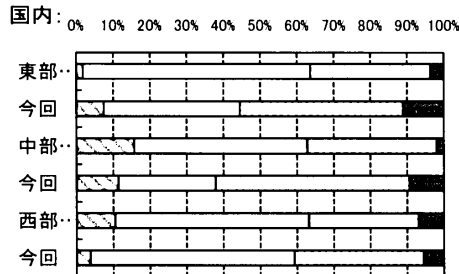
2. 市場別向後約半年の見通し



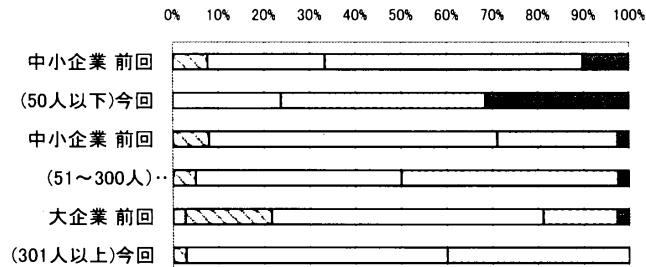
3. 製品別向後約半年の見通し



4. 地域別向後約半年の見通し

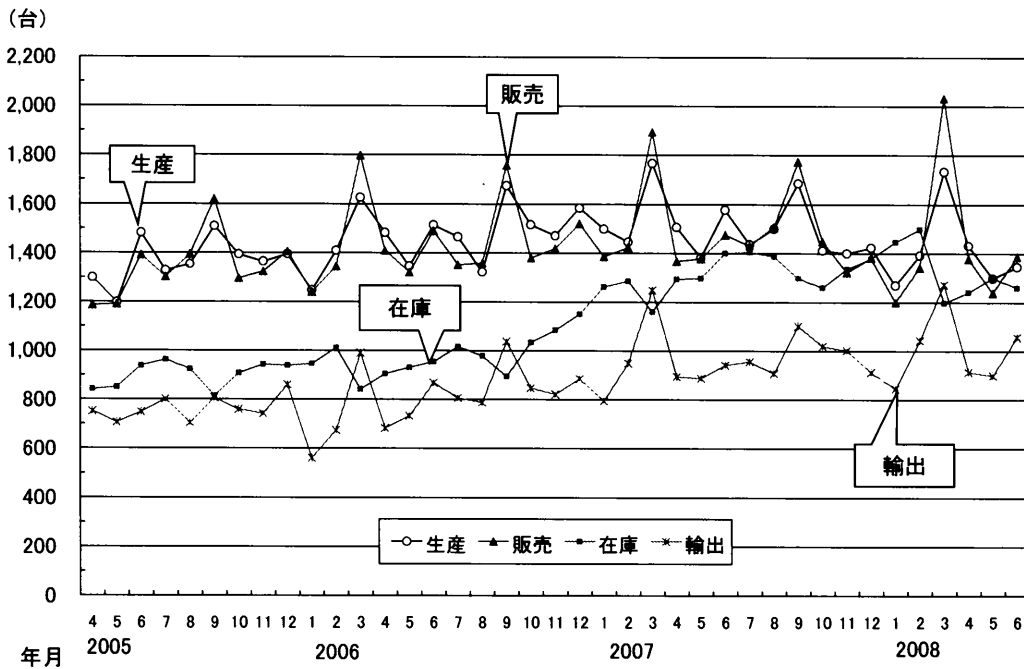


5. ユーザー規模別向後約半年の見通し

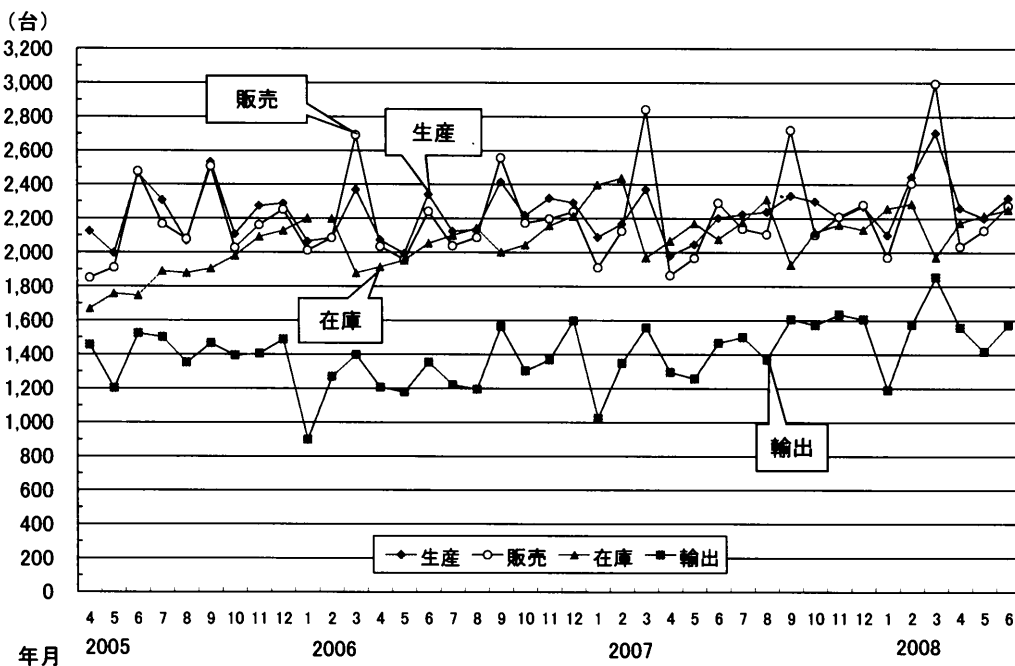


注：調査データは日工販ホームページをご覧ください。

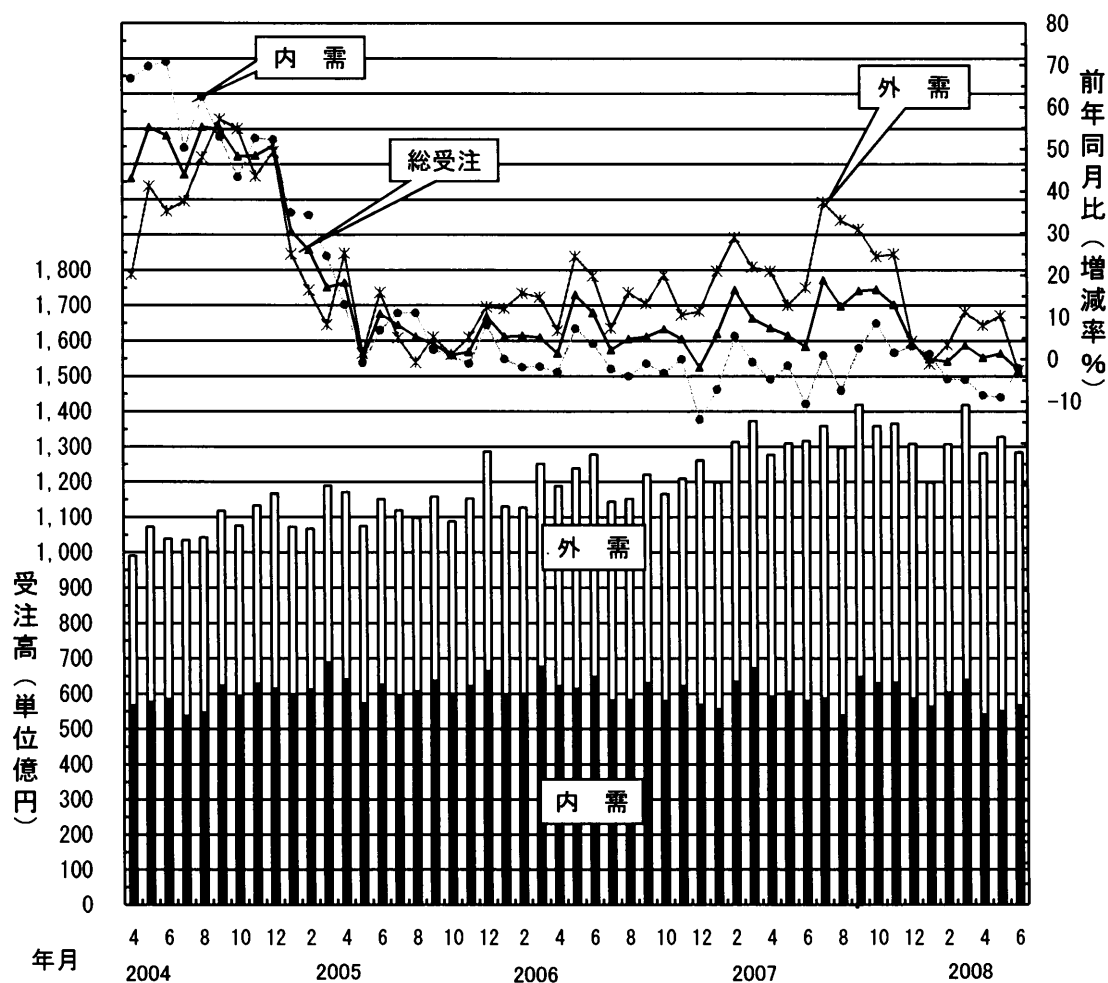
マシニングセンタ動向



NC旋盤動向



工作機械受注高月別推移



コメント：工作機械受注高月別推移

第2四半期に入り、内需500億円台、外需700億円台と高い水準で推移。前年比では内需は6.6%減、外需は堅調で5.1%増、総額では0.3%減となる。前四半期と比較すると、内需は8.1%減、外需は5.4%増、総額では0.8%減とほぼ横ばいで推移した。

前回も申し上げたが、今後の予測は非常に難しくなってきた。

コメント：マシニングセンタ、NC旋盤動向(四半期ベース)

前年比でみると生産はそれぞれ8.7%減、8.3%増と相反する結果となり、販売においてもそれぞれ3.5%減、5.1%増とまったく対照的な結果となる。

輸出はそれぞれ5.4%増、12.0%増とまだまだ勢いがある。

前期比では生産はそれぞれ7.3%減、6.4%減。販売はそれぞれ11.0%減、12.7%減とかなりの落ち込みとなる。輸出においても、それぞれ10.2%減、1.6%減となった。

工作機械業種別受注額(2008年7月)

8月21日発表

(単位:百万円、%)

業種	2007年 累計	前年比	2008年 1~3月 累計	2008年 4~6月 累計	前期比	前年 同期比	2008年 1~7月累計	前年 同期比	7月分	前月比	前年 同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属	12,664	97.4	3,397	2,878	84.7	101.4	9,385	126.1	3,110	478.5	205.1
2. 金属製品	21,582	102.6	5,619	6,195	110.3	104.4	13,120	107.0	1,306	56.8	88.4
3. 一般機械 (内金型)	319,284	96.7	77,205	75,378	97.6	89.8	174,776	92.3	22,193	85.0	86.6
4. 自動車 (内自動車部品)	56,975	85.5	11,975	11,909	99.4	77.7	27,137	77.4	3,253	78.5	79.8
5. 電気機械	213,125	109.0	55,303	49,352	89.2	109.5	120,640	102.3	15,985	87.1	92.7
6. 精密機械	92,180	103.4	27,131	27,633	101.9	144.3	62,289	120.4	7,525	69.5	79.8
7. 航空機・造船・運送用機械	46,355	88.6	10,303	8,001	77.7	66.4	21,187	74.7	2,883	121.3	76.2
3~7. 小計	31,571	85.8	8,225	7,739	94.1	111.8	17,636	102.4	1,672	66.6	62.5
8. その他製造業	77,926	87.4	18,528	15,740	85.0	83.0	38,823	85.2	4,555	93.2	70.5
9. 官公需・学校	29,796	110.1	8,608	7,982	92.7	97.7	19,380	103.6	2,790	142.4	145.2
10. その他需要部門	640,131	99.7	159,644	148,452	93.0	95.1	353,619	95.2	45,523	88.7	88.8
11. 商社・代理店	34,794	92.2	7,888	4,858	61.6	55.0	14,343	67.5	1,597	117.9	57.2
1~11. 内需合計	2,072	98.7	243	259	106.6	185.0	804	128.2	302	269.6	293.2
12. 外需	8,164	97.6	2,152	2,048	95.2	101.3	4,704	93.2	504	78.4	64.2
1~12. 受注累計	7,017	78.2	1,703	1,355	79.6	71.6	3,444	74.8	386	97.2	44.7
(内NC機)	726,424	99.1	180,646	166,045	91.9	93.4	399,419	94.5	52,728	92.9	89.7
	863,567	122.7	211,852	223,382	105.4	105.1	506,368	102.9	71,134	99.3	92.2
	1,589,991	110.6	392,498	389,427	99.2	99.8	905,787	99.0	123,862	96.5	91.1
	1,529,644	111.3	378,045	374,507	99.1	99.7	873,009	99.3	120,457	97.1	92.4
販売額	1,522,632	108.2	424,287	347,331	81.9	102.7	896,320	103.7	124,702	96.7	101.7
(内NC機)	1,467,631	108.8	408,069	335,562	82.2	103.0	864,274	103.8	120,643	96.6	101.9
受注残高	758,815	110.9	722,147	766,391	106.1	105.5	764,061	102.5	764,061	99.7	102.5
(内NC機)	721,952	111.1	688,203	728,796	105.9	105.4	729,882	102.9	729,882	100.1	102.9

出所(社)日本工作機械工業会

会員・業界消息

経済産業省	製造産業局産業機械課長 米村 猛(7月11日)
	製造産業局産業機械課生産機械二係長 土井義人(7月1日)
代表者変更	東部正会員 (株)旭商工社 取締役社長 小川謹吾
	賛助会員リース 首都圏リース(株) 取締役社長 村上則忠
窓口変更	中部地区正会員 サンコー商事(株) 管理本部総務GM 長坂昌幸
	賛助会員メーカー 富士機械製造(株) 工作機械事業本部国内営業部部長 山添正太郎
	賛助会員リース NTTファイナンス(株) 専門営業部長 今川慎一

行事予定

東部地区情報交換会	8月25日(月)	仏教伝道センター
AMTDA主催国際会議	9月10日(水)	シカゴ・マコーミックプレイス
中部地区懇親ゴルフ会	9月13日(土)	東名古屋カントリークラブ
政策委員会・定例理事会	9月17日(水)	大阪産業創造館
調査広報委員会	9月24日(水)	機械工具会館
西部地区製品研修会	10月1日(水)	エル・おおさか
東部地区製品研修会	10月7日(火)	仏教伝道センター
中部地区製品研修会	10月8日(水)	名古屋ダイヤビル
SE講座・東京	10月9~11日(木~土)	仏教伝道センター、専売ビル
SE講座・名古屋	10月16~18日(木~土)	I.M.Yビル
SE講座・大阪	10月23~25日(木~土)	新梅田研修センター
日工販国際レセプション	11月1日(土)	東京ビッグサイト会議室102
展示会		
JIMTOF2008第24回日本国際工作機械見本市	10月30日(木)~11月4日(火)	東京ビッグサイト

編集後記

- 8・9月合併号をお届けします。8月は日工販ニュースも夏休みとなりましたが、今年も厳しい猛暑日が続き熱中症にかかる人が例年に増して多かったようです。今年の夏の話題としては、やはり北京オリンピックとなりますが中国が最もこだわる数字の八が並んだ2008年8月8日午後8時8分より開催され熱戦が繰り広げられましたが時差が1時間のためほぼリアルタイムで観戦が出来ました。出場選手達にとって、競技のその瞬間に自分の体調・技量をいかにピークに持って行けるかに懸っていますが、特に体調に支障を来し不本意な成績に終わる、あるいは涙をのんで棄権という場面がありました。そうしたなかで前回オリンピックに続いて見事な成績を収めた選手達がいますが、彼ら彼女らの快挙に心から拍手を送りたいと思います。
- 今月号より隔月ですが新企画として『メーカーに聴く、プロのこだわり!』がスタートしました。第一回目は林岡本工作機械製作所を訪問させて頂きました。“ものづくり”にはメーカー各社それぞれの“こだわり”をお持ちだと思います。これからそうした“こだわり”を聴かせていただけたらと願っています。
- 巻頭言は山下機械(株)山下会長からご寄稿頂きました。工作機械と自動車は切っても切れない関係であり、日本の自動車産業の発展により工作機械生産が伸び、一方工作機械産業発展に支えられて自動車産業が伸びてきたとも言えます。日本製自動車が世界一に迫っているのは、高精度加工の要求に応えながら、一方で絶え間ないコスト削減の強い要求にも応える努力をして生産を支えてきている設備メーカーの技術力・対応力によることが大であります。そして日本の自動車産業と工作機械産業のコーディネーター役として発展を支えてきたのが工作機械販売会社です。この三者が運命共同体として邁進してきたのが日本の強さの源と言えると思います。
- 7月の受注は最近の弱含み景気状況、米国経済の減速を反映して前年同月比8.9%減となり、2カ月連続マイナスとなりましたが、特に内需は前年同月比10.3%減となり2月から6カ月連続マイナスとなっています。工作機械主要8社も70カ月ぶりに前年同月比マイナスとなっており今後の市場の動向が気になります。

「日工販ニュース」 Vol.20 - No.8・9

平成20年9月15日発行

発行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879

発行責任者 専務理事 宇佐美 浩
編集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (50音順)

平成20年9月1日現在

正会員(全71社)

[東部地区(35社)]

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 大石機械(株)
 (株) カ ナ デ ン
 (株)カネコ・コーポレーション
 (株) 兼 松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 国 興
 (株) 三 機 商 会
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 太平興業(株)
 (株) 高 橋 機 械
 帝通エンチニヤリング(株)
 (株) テ ツ カ
 (株) T E M C O
 トッキ・インダストリーズ(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a I T O
 (株) ナ 子 常 盤
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 松茂工販(株)
 三井物産マシンテック(株)
 三菱商事テクノス(株)
 (株) ヤ マ モ リ
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

[中部地区(20社)]

石原商事(株)
 (株) 井 高
 岡谷機販(株)
 力ト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコ一商事(株)
 三立興産(株)
 下野機械(株)
 (株) 大 成

(株) 大 誠
 (株) 東 陽
 (株) 日 本 精 機 商 会
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

[西部地区(16社)]

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 (株) お じ ま
 関西機械(株)
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネ ッ ト
 大幸産業(株)
 (株) 立花エレテック
 西川産業(株)
 日本産商(株)
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全74社)

[製造業(56社)]

(株) ア マ ダ ワ シ ノ
 (株) エ グ ロ
 S M C (株)
 エヌティーツール(株)
 (株)MSTコーポレーション
 エ ン シ ュ ウ (株)
 オ ー エ ス ジ ー (株)
 オ ー ク マ (株)
 大阪機工(株)
 (株)岡本工作機械製作所
 (株)神崎高級工機製作所
 (株) 北 川 鉄 工 所
 キタムラ機械(株)
 キ ャ ム タ ス (株)
 京 セ ラ (株)
 (株)グラフィックプロダクツ
 黒田精工(株)
 (株) ジ ェ イ テ ク ト
 (株)シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 住友電工ハードメタル(株)
 (株) ソ デ ィ ッ ク
 大昭和精機(株)
 (株) 太 陽 工 機

高松機械工業(株)
 (株) 滝 澤 鉄 工 所
 (株) ツ ガ ミ
 津田駒工業(株)
 (株) 東 京 精 密
 東芝機械マシナリー(株)
 東洋精機工業(株)
 (株)ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株) 日 研 工 作 所
 (株) 日 平 ト ヤ マ
 日本ディエムジー(株)
 (株) パ ト ラ イ ト
 浜井産業(株)
 日立ツール(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー販売(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株)牧野フライス製作所
 (株)松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ツ ト ヨ
 三菱重工(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森 精 機 製 作 所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)

[リース業(18社)]

N T T ファイナンス(株)
 協同リース(株)
 共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 GEフィナンシャルサービス(株)
 住信リース(株)
 東京リース(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日立キャピタル(株)
 三井住友ファイナンス&リース(株)
 三井リース事業(株)
 三菱電機クレジット(株)
 三菱UFJリース(株)